

# 北岩手トレッキング紀行

特集

闇を彩る

# 一期一会の 山めぐり



山旅を彩るのは、その日、その時出会った風景である。咲き誇る花、渡る風、足裏に伝わる土の感触。それは皆、連続と続く時の中でめぐり会った一度きりのシーンである。北岩手の雄大な山々でめぐり会った、一期一会の風景をご紹介しよう。

# 虫の灯

岩手県二戸市・軽米町・九戸村

## 折爪岳

七夕の夜に繰り広げられるヒメボタルの乱舞

西の空を染めた夕日を見送り、あとは夜を待つだけだった。梢の輪郭が闇に溶け、徐々に夜に包まれる森は静かで、梅雨明け前の熱気と湿度が濃厚に匂った。こっぴう夜がチャンスだと聞いていた。「ちようど七夕の頃、蒸し蒸しする夜がいい。条件を整えば、折爪岳の山頂全体でヒメボタルの乱舞が見られる」今夜はまさにそんな夜だった。しかし、闇は一層濃くなるばかりで、生き物の気配は感じられない。今日はダメかもしれない。待ちくたびた頃だった。ほんやりと闇を見つめる目の前を小さな光の粒が横切ったのである。今思えばそれが合図だった。チカチカと明滅を繰り返す光がふつと数に消えると同時に、足元や、トレイルの両側に広がる数のあちこちで小さな光の粒が瞬き始めたのである。ヒメボタルの光は、ゆっくりと呼吸するかのように光を灯すゲンジ

ボタルとは全く異なり、細かく鋭く灯された。そして、闇の力が増すにつれて、光の数は増え明滅は速まっていた。それがピクピクに達した時だった。先程まで、木や葉裏に留まっていた光が、一気に動き始めたのだ。閃光にも似た光を放ちながら、漂うようにさまざまように宙を舞うボタルたち。そのきらめきはまるで銀の粉を水にまいたかのようにどこまでも幻想的だった。一年に一度、織姫と彦星が天の川で再会を果たす夜に繰り広げられるヒメボタルの乱舞。小指の先ほどにも満たない小さな生命の光は、「今」という一瞬の時の中で輝き続けていた。



東北最大のヒメボタル群生地として知られる折爪岳。雌は閃光にも似た明滅を繰り返しながら、雄を誘い交尾するという。「螢の灯」は闇の中で輝く生命そのものなのだ。



螢の夜が明ければそこはブナ原生林が残る遊歩道だった。7月10日から20日くらいまでの間、この遊歩道のあちこちでヒメボタルの乱舞を見ることができる。

黄昏時の山頂に立つ。山頂にはいつもの展望台が備えられており、遊歩道をめぐりながらふるさとの絶景を楽しむことができる。



山頂に至る道の近くで出会った「織姫の滝」。清冽な水がほとばしっていた。この豊かな水が、折爪岳の生き物を支えている。



三市町村にまたがる折爪岳の山頂(852.2m)を展望台から望む。地元の人々が愛して止まないふるさとの山である。



ミレットパークのすぐ近くにある岳の湧口は、岩手名水20道にも選ばれた清水。トレッキングの帰りに喉を潤したい。

### Guide



折爪岳オートキャンプ場  
頂上付近には快適なオートキャンプ場が完備されている。眼下に二戸の街並みと、奥羽山脈に落ちる鮮やかな夕日を楽しむことができる。  
☎ 0195-23-3111



折爪岳仙人の食卓(山の家) 山頂にある食堂「折爪岳仙人の食卓」では、山の幸を用いた自然食が楽しめる。写真は、ブナハリタケとタモギタケを用いた「仙人ラーメン」。(5月～11月の土・日・祝日営業)  
☎ 0195-23-7599



コースタイム / 山頂付近に設置された遊歩道を歩けば、展望台をひとつづつ巡ることができる。ぐるっと1周して約60分程度。  
アクセス / 新幹線二戸駅から25分、東北自動車道九戸ICから15分、軽米ICから20分  
山行アドバイス / 二戸市・坂本からの登山道は、戦国武将九戸政実公が往復したコースが設定されている。折爪岳に限っては、山頂付近に敷かれた遊歩道を歩くのが一番のオススメ。オートキャンプ場のほかに、1泊1000円のキャンプ場もある。  
問合せ先 / 折爪岳振興協議会事務局  
☎ 0195-23-3111(二戸市役所商工観光課内)